


Express5800/320Fb-L, 320Fb-LR (N8800-096/097) Express5800/320Fb-M, 320Fb-MR (N8800-098/099) ご使用時の注意事項

この度は、弊社製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本製品をご使用いただくにあたり、一部注意事項がございます。誠に恐れ入りますが、ご使用前に下記を必ずご一読
いただき、ご注意くださいようお願い申し上げます。
なお、本書は必要なときにすぐに参照できるよう大切に保管してください。

- 注意事項
- ユーザーズガイド補足事項

■ 注意事項一覧

1	<h3>UPDATE CD 適用のお願い</h3> <p><u>本装置を安定してご利用いただくために、初めてご使用になる際は必ず本体装置に添付のUPDATE CD 適用手順書に従ってftドライバ(GeminiEngine Control Software)を更新してください。</u></p> <p><u>また、本装置のOSをEXPRESSBUILDER CD-ROMで再セットアップする場合も、同様にUPDATE CDを適用して下さい。</u></p>
2	<h3>バックアップソフトご使用時のご注意</h3> <ul style="list-style-type: none"> ■ ARCserveなどのバックアップソフトウェアを使用してバックアップされたシステム情報を、フルリストア機能で書き戻す際に、本装置用のSCSIドライバが古いバージョンに置き換わっている場合があります。 <p>バックアップソフトウェアのフルリストア機能を使用してシステム情報を戻したあとは、本体装置に添付のEXPRESSBUILDERを使用して以下の手順でSCSI Driverの更新を行ってください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="flex: 1;">  </div> <div style="flex: 3;"> <ul style="list-style-type: none"> ■ 必ず手順にしたがって作業を行ってください。 ■ OSのインストール時に使用したローカルのアカウント(デフォルトではAdministrator)でログオンしてください。 ■ 装置のFTステータスランプが緑色に点灯し、二重化動作していることを確認した後にアップデートを行ってください。 </div> </div> <ol style="list-style-type: none"> 1) EXPRESSBUILDER CD-ROMをCD-ROMドライブにセットします。 2) スタートメニューより「ファイル名を指定して実行(R)」を選択します。 (「ファイル名を指定して実行」ダイアログが表示されます。) 3) “名前(O)”欄に「D:¥HAS¥W2K3¥HASSETUP¥SCSI¥UPDATE.VBS」(D:はCD-ROMのドライブ文字)と入力し、「OK」をクリックします。 → コマンドプロンプトが起動され、自動的に処理が実行された後、コマンドプロンプトが閉じられます。 4) インストール完了時に再起動が必要になります。CD-ROMドライブからCD-ROMを取り出して再起動を行ってください。 </div>

■ ユーザーズガイド補足事項

1	<p>内蔵ハードディスクドライブ交換時のご注意</p> <p>■ 本装置に内蔵されているハードディスクドライブを予防保守などでシステム動作中に交換される際は、以下の点にご注意ください。</p> <p>はじめに、ユーザーズガイド「3 Windowsの操作と設定」の「ディスクの操作」に記載の「故障ディスクの交換」の内容を良くお読みください。</p> <p><u>スロット0およびスロット3の、OS起動ボリュームを含むハードディスクドライブを交換する場合は、ハードディスクドライブを取り外す前に、「ミラーの削除」を実施しないでください。</u></p> <p>交換にあたっては、「ディスクの管理」機能を実行し、交換対象のハードディスクドライブを確認してください。確認後、対象のハードディスクドライブをハードディスクドライブベイから取り外してください。その後、ユーザーズガイド「3 Windowsの操作と設定」の「ディスクの操作」に記載の「故障ディスクの交換」に従ってハードディスクドライブを交換してください。</p> <p>※ハードディスクドライブの取り外しをする前に「ミラーの削除」を実施すると、boot.iniファイルが不正更新され、次回以降のOS起動ができなくなる場合があります。</p>
2	<p>DISK ACCESSランプについて</p> <p>■ システムが高負荷の状態で運用されている場合、ディスクボリュームのミラーリング完了後、DISK ACCESSランプが点滅したままの状態となることがあります。</p> <p>また、ESMPRO/ServerManagerのデータビューアおよびサーバ保守ユーティリティにて SCSI スロットの状態が「同期処理中」のままの状態となることがあります。</p> <p>システムの負荷が低下して 5分以上経過してもDISK ACCESSランプが点滅したままであれば、以下のサービスの再起動をしてください。</p> <p>HAS Volume Monitoring Service</p> <p>※このサービスはディスクボリュームのミラー状態を監視し、DISK ACCESSランプへの反映と、状態変化のイベントログ出力をします。本サービスを停止しても、システムの二重化動作には影響を与えません。</p>
3	<p>システムのコンフィグレーション(4-6ページ) 下記を「重要」へ追記してください</p> <p>■ リモートマネージメントカードのIPアドレスをDHCPにより自動取得するか否かの設定について変更した際は、本体装置のACを一度OFF/ONする必要があります。</p> <p>またEXPRESSBUILDERのシステムマネージメント機能、及び、DianaScopeAgentからDHCPによるIPアドレスの自動取得を行うか否かの設定を変更した場合も、同様に本体装置のACを一度OFF/ONする必要があります。</p>

4	<p>Express5800/320Fb-M、320Fb-MRモデルのプロセッサ周波数表示について</p> <p>■ OS上の機能(システムのプロパティ、デバイスマネージャ等)においてプロセッサ周波数が3.00GHzと表示されることがありますが、実際の動作周波数は2.4GHzです。</p>
5	<p>イベントログについて</p> <p>■ システム立ち上げ時に、以下のイベントがイベントログに数回記録されることがあります。これはCPUモジュールの二重化処理の過程で発生するものであり、問題はありません。ただし、本イベントが複数回発生した後でFTステータスランプが点灯しない場合には最寄りの販売店、保守サービス会社にご連絡ください。</p> <p>ソース : HasCtrl 種類 : エラー イベントID : 1003 説明 : CPUモジュールの組み込みに失敗しました。 [モジュール番号] : "モジュール#0"もしくは"モジュール#1"</p> <p>ソース : ESMCommonService 種類 : 警告 イベントID : 1309 説明 : システムバスのECC1bitエラーが発生しました。</p> <p>ソース : HasCtrl 種類 : エラー イベントID : 2101 説明 : メモリチェックに失敗しました。</p> <p>ソース : HasCtrl 種類 : エラー イベントID : 3400 説明 : モジュール#1のNEC GeminiEngine HA System Controllerがエラーを検出しました。 [モジュール番号] : "モジュール#0"もしくは"モジュール#1"</p> <p>ソース : HasCtrl 種類 : 警告 イベントID : 4310 説明 : CPUモジュールの同期化が止まりました。</p>

6 N8803-033 FiberChannelボードセットご使用時のご注意

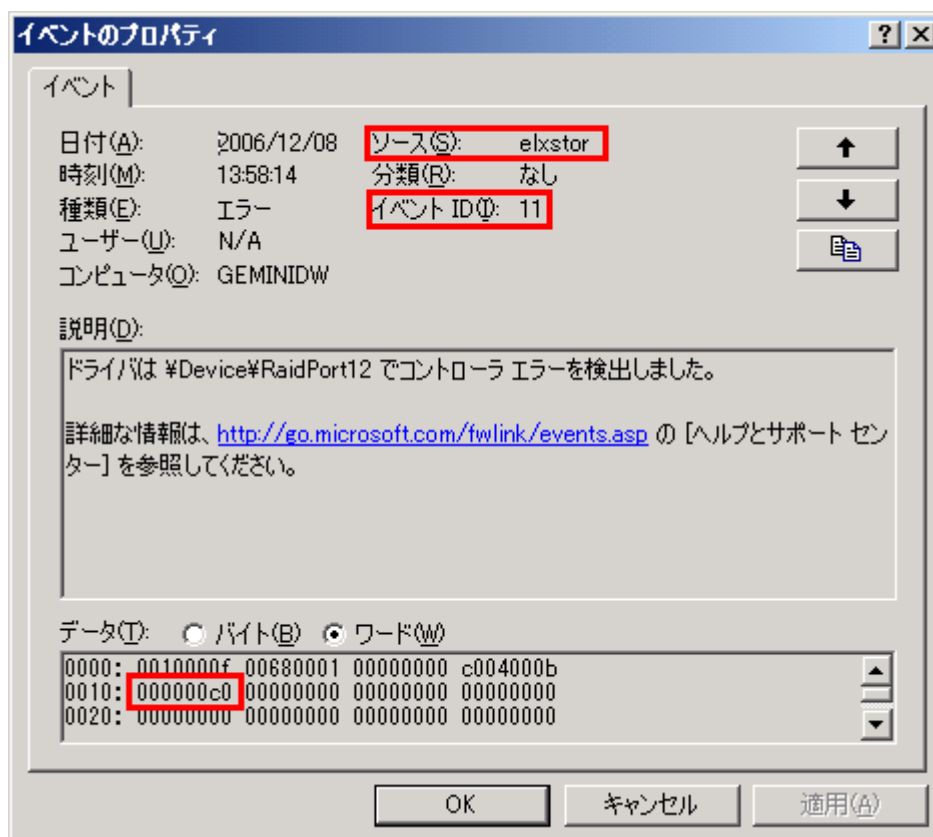
- 本装置にFibreChannelボード(N8803-033)を増設されているシステムにおいて、CPU/IOモジュールに故障が発生し、システム動作中に交換される際は以下の点にご注意ください。

CPU/IOモジュール交換において、二重化が正常終了しないことがあります。
システムイベントログに次のイベントが登録されているかどうか確認してください。

ソース(S): elxstor

イベントID(I): 11

データ(T): ワードで0010先のデータが、"000000C0"



上記イベントが登録されている場合、FibreChannelボードの初期化に失敗しています。システム負荷を軽減し、再度CPU/IOモジュールの電源をOff/Onしてください。

上記イベントが登録されていない、または負荷を軽減してもシステムの同期化が正常に終了しない場合は、最寄りの販売店、保守サービス会社にご連絡ください。

7 エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)について

■ 本FTサーバでサポートしている主な通報要因は以下となります。

- ・ CPU/IOモジュール縮退
- ・ ハードディスク異常(ミラーディスク縮退含む)
- ・ 温度異常
- ・ ファン異常
- ・ UPS異常(通報機能をサポートしたUPS管理ソフトウェア使用時)

※システムダウン後のリブート発生による通報は未サポートです。

